

令和7年度イカナゴ仔稚魚調査結果概要

※本稿は調査終了後にとりまとめたもので、調査後の研究所での生物標本の測定、分析や資料の解析によって内容が改訂される場合があります。

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

令和8年1月14～21日（1次調査）、および1月27日～2月3日（2次調査）に、備讃瀬戸および播磨灘西部においてイカナゴ仔稚魚調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は備讃瀬戸および播磨灘西部におけるイカナゴ仔稚魚の分布密度を明らかにし、瀬戸内海東部海域全体における資源管理のためのデータ取得と情報提供を目的としています。

調査方法

調査船こたか丸により、ボンゴネット（目合 $335\mu\text{m}$ 、図1）を海底-5mまで下ろして10秒間水平曳きからの傾斜曳き（船速約2～3ノット、巻上げ速度0.3～0.5m/秒）を、岡山県および香川県の定線調査点から各8調査点、および播磨灘西部の1調査点の計17調査点（図2）にて実施した。



図1 左：ボンゴネット、右：イカナゴ仔魚（背景の格子一辺は1mm）

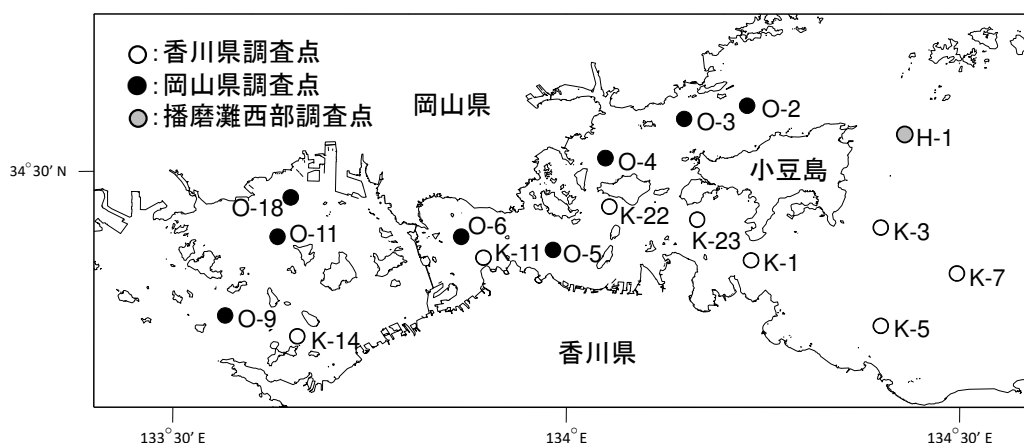


図2 調査点配置

1. 仔稚魚の出現状況（ボンゴネット左側採集結果を 1m² 水柱あたりに換算、図 3）

1) 1次調査（1月14～21日）

備讃瀬戸、播磨灘西部ともに仔稚魚の出現は確認できなかった。

2) 2次調査（1月27日～2月3日）

備讃瀬戸西部（O-9）で0.3尾出現した（備讃瀬戸全体では平均0.04尾）。

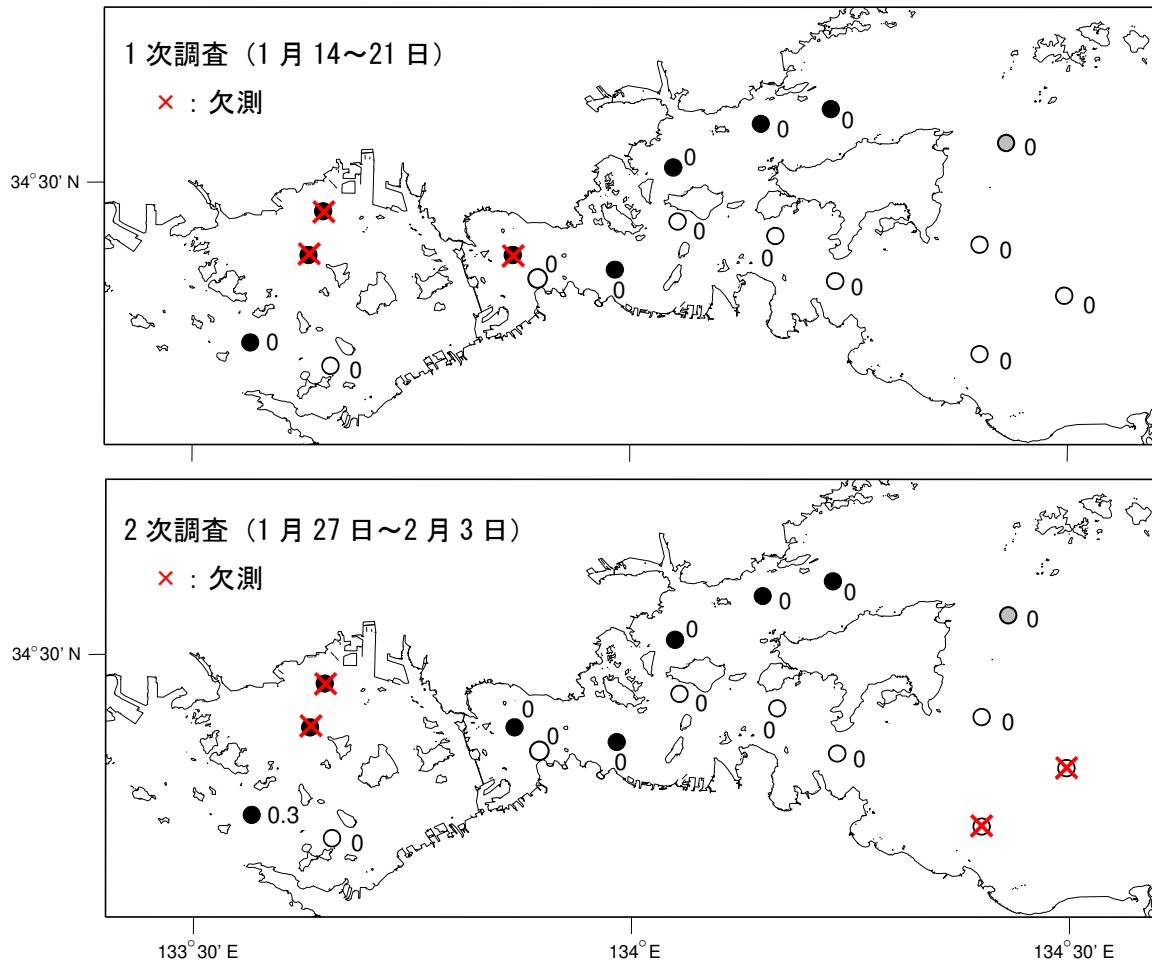


図 3 各調査点におけるイカナゴ仔稚魚の採集尾数（ボンゴネット左側：1m² 水柱あたりに換算）

表 海域ごとの仔稚魚平均採集尾数の推移（1m² 水柱あたり）

海域	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	今年度
備讃瀬戸（1次）	17.0	42.6	0.8	0.13	0.15	0.0
備讃瀬戸（2次）	5.1	8.1	13.7	0.0	0.0	0.04
播磨灘西部（1次）	35.8	0.0	0.0	0.0	0.05	0.0
播磨灘西部（2次）	1.1	3.1	1.8	0.08	0.0	0.0

2. イカナゴ仔稚魚のサイズ組成 (図 4)

1) 1次調査 (1月14~21日)

備讃瀬戸、播磨灘西部ともに仔稚魚の出現は確認できなかった。

2) 2次調査 (1月27日~2月3日)

備讃瀬戸出現個体の脊索長は5.1mmであった。

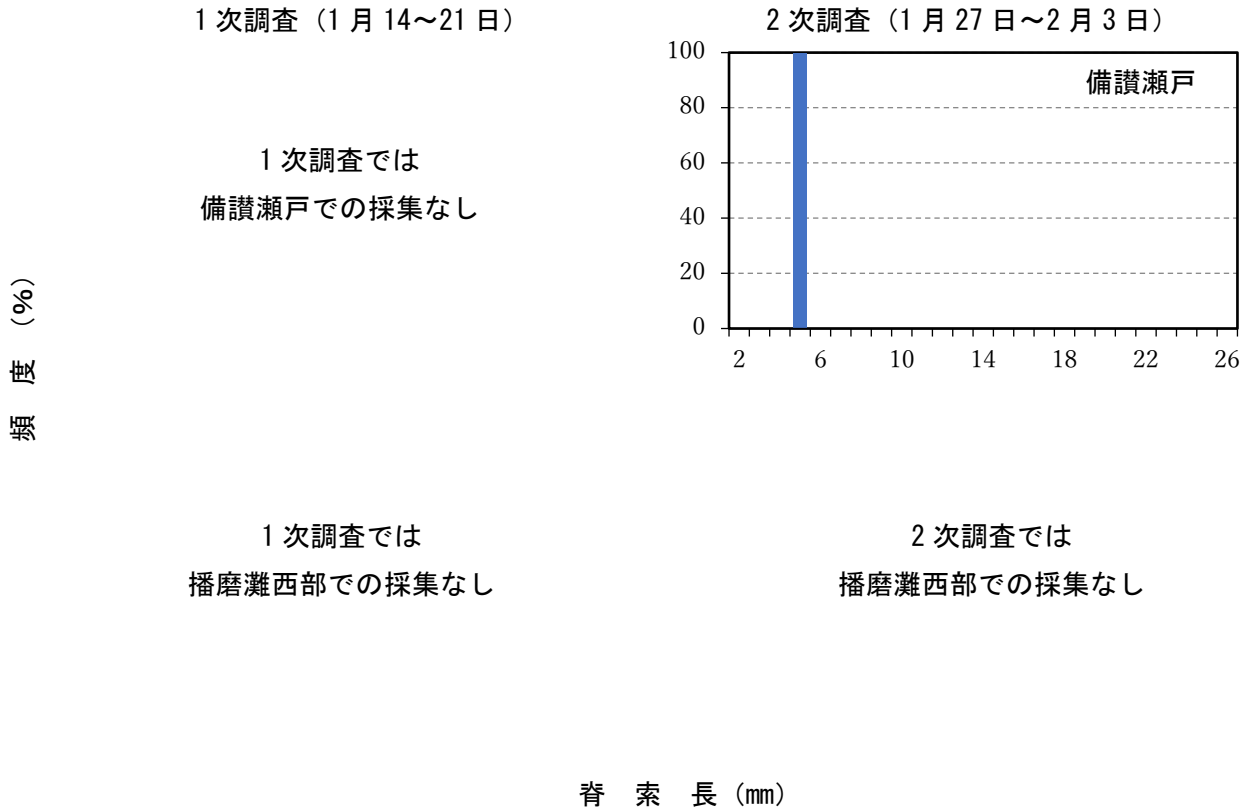


図 4 イカナゴ仔稚魚の脊索長組成 (上段：備讃瀬戸、下段：播磨灘西部)

本調査における仔稚魚の出現は過去最低であった昨年をさらに下回り (表)、播磨灘西部では1次、2次両調査を通して初めてその出現を確認することができなかった。前年12月に実施した親魚調査における個体密度も昨年に続き過去最低を更新しており、本種の資源状態はさらに悪化の一途をたどっていることが示唆される。

本調査は水産庁「水産資源調査・評価推進委託事業」の一環で実施されている。

お問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

(担当：浮魚資源部 浮魚第2グループ 高橋)

TEL：0829-55-3593 FAX：0829-54-1216

E-mail：takahashi_masanori09@fra.go.jp